

「バイクと社会」 1

バイクの魅力



バイクの魅力は何だろう。

バイクには乗った人にしかわからない魅力がある。それは、全身で風を受けること、スピードを肌で感じること、遠くまで行けること、一人になっていろいろなことが考えられること、不便なこと、危ないことだ。

バイクは、車と違って、ドアや窓といった囲いがないから風やスピードを全身でダイレクトに感じる。それは乗った人にしかわからない快感だ。また、バイクはメカメカしいものだから、それに乗っている自分はマンガや映画の登場人物になったような気分になる。子どもがバイクに憧れるのは、見た目にも「特別な」感じがする乗り物だからだろう。これらは、わかりやすいバイクの魅力だ。

一方で、不便なことや危ないことは、魅力じゃなくて、欠点ではないかと思うかもしれない。しかし、それは違う。

まず、不便なことだが、バイクは車のようには大きくないから、荷物をほとんど載せられない。人も一人か二人しか乗れないし、ふつう一人で乗ることが多い。おまけに屋根がないから、雨が降ったら濡れてしまう。たしかに、不便な乗り物だ。どうしてそんな不便なことが魅力なのか。それは、不便さの裏に自

由が隠れているからである。

不便というのは、制限が多いということだ。乗れる人数は少ないし、乗せられる荷物の量にも制限がある。天気が悪ければ乗れない。これは裏をかえせば、一人でバイクに乗ることは一人だけの時間が持てることであり、たくさんの荷物が載せられないのなら、何も荷物を持っていかななくていいということだ。天気が悪ければ、乗らなければいい。一人で乗るから、どこに行くか、いつ帰るかも自由。制限があるからこそ、いろいろな束縛から離れて、自由になれるということである。

もう一つの大きな魅力は、バイクが危ない乗り物だということだ。危ないことが魅力だなんて言うと、変な人のように思われるかもしれない。でも、そうではない。

一般的にバイクは、右手で前のブレーキ、左手でクラッチ、右足で後ろのブレーキ、左足でシフトチェンジの操作をする。バイクに乗るときには、両手両足を使うのである。それだけではなくて、曲がる時には、バイクを傾けなければならないし、ブレーキをかける時には、しっかり膝で体重を支えないと、飛ばされてしまう。目はいつも道路の状況を確かめていなければならないし、ヘルメットをかぶるだけでも首に負担がかかる。バイクに乗ることは、全身運動なのである。全身を使って運転しなければならぬ。バイクは車に比べてスピードも出やすいので、運転が未熟だと危険な乗り物になってしまう。「危ないのが魅力」というのは、乗り手の技術が運転の善し悪しの多くの部分を決めることである。バイクの性能も関係があるが、上手にバイクを走らせようと思ったら、乗り手の技量が大きく問われる。そこが、魅力なのである。

バイクの魅力がわからない人は、まず、だれかバイクに乗っている人の後ろに乗せてもらうといいだろう。そうすれば、バイクの自由さを少し肌で感じられる。それがわかったら、次は免許を取って自分で運転してみるといい。そうすると、「不便なこと」「危ないこと」が魅力だということがきっと分かってもらえるはずである。

(1314字)

(2020.12 Written by Toru YOSHIKAWA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスのもとに提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.